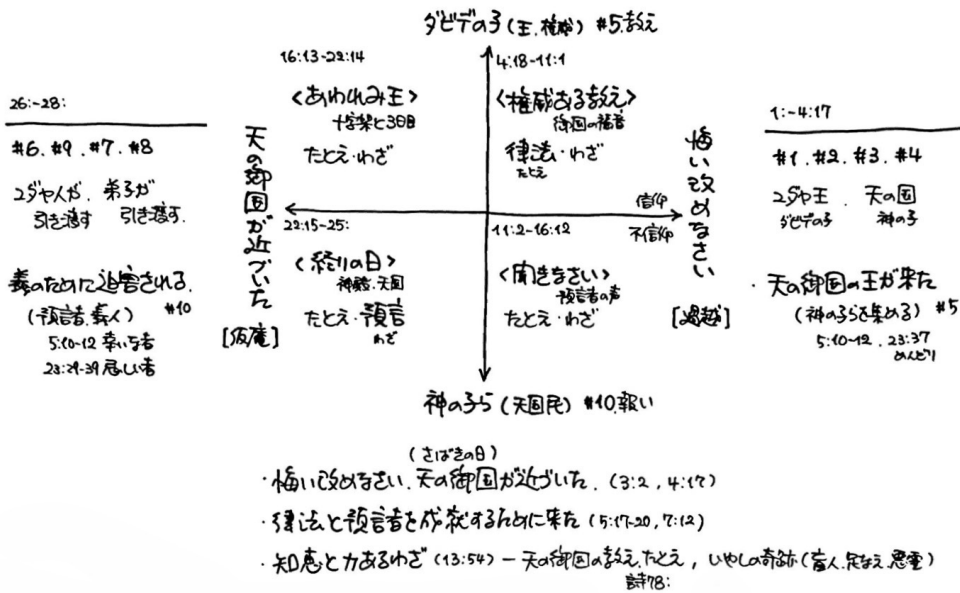




# マタイ福音書1-28章

マタイ 1:-28: 『天の御国の福音』

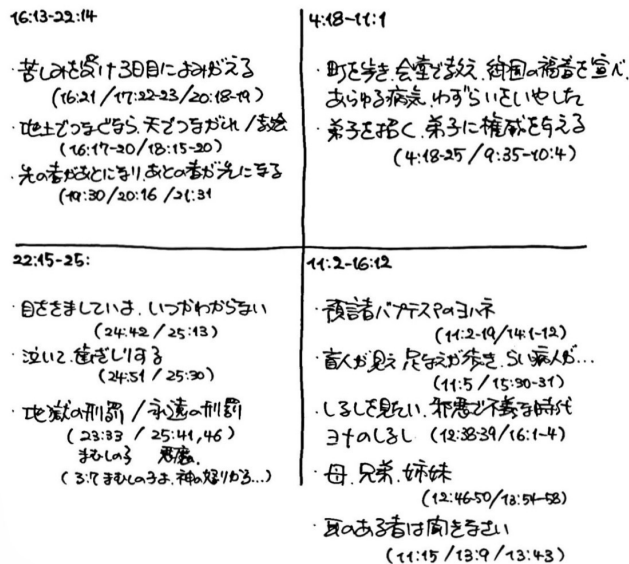
2016.12.28



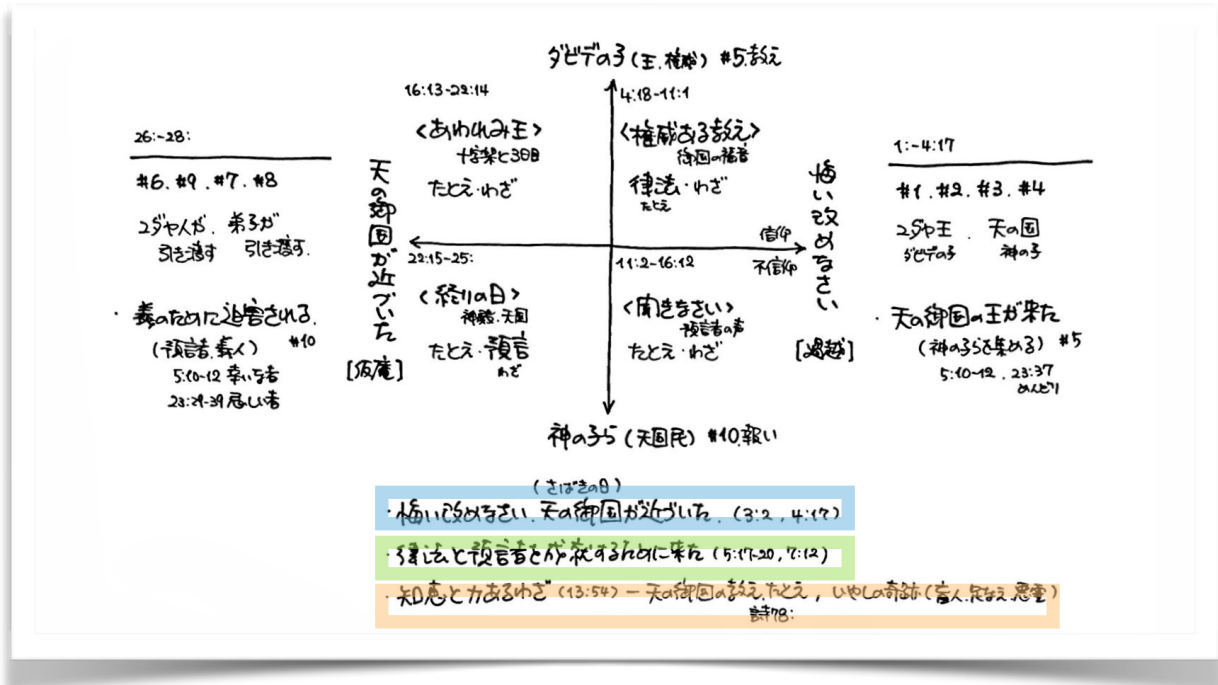
マタイ福音書の全体の分析をしてきました。全体が導入の1章から4章までと、十字架に引き渡される26章からのところを除いて、真ん中(4:18-25;)が4つの段落に分かれているであろうということ、それぞれ分析しながら見てきました。

マタイ 4:18-25: 各段落の中での繰り返し....

2016.12.22



この段落の中で、繰り返しの言い方があります。町を歩いて会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、わずらいを癒やした。預言者バプテスマのヨハネの話が2度(段落)飛んで出てくる。ヨナのしるしのほかにはという話もありました。耳のある人は聞きなさいが2回あったり、ここの中で忘れていましたけれど、山が動く、信仰があれば山が動く、その祈りが聞かれるという話が2回あったりして、この中に、段落を飛んで並行している言い方がありますので、それも4つの段落に分けたということのしるしになっているかなということです。



(導入の段落)バプテスマのヨハネが言うところ(マタイ 3:2)に「悔い改めなさい、天の御国が近づいた」と。そして、イエス様が言う(マタイ4:17)という2箇所にありますけれど、その2つの言い方でこの4つの段落の大きなくくりが、これ(「悔い改めなさい、天の御国が近づいた」)でしょう。

まず最初の2つの段落(4:18-11:1)(11:2-16:12)が「悔い改めなさい。」教え(4:18-11:1)を聞きなさい(11:2-16:12)。そして(次の2つの段落は)、あわれみの王(16:13-22:14)が来ます。その裁きの日が来ます(22:15-25;)。これは、裁きの日。天の御国というのは、天の御国が始まりますという裁きの日です。主の日。主の日が来ますということが言われている。これは、預言者が言うことです。預言者は「悔い改めなさい。主の日が近づいている。主の裁きが来ますよ」と預言者が言うような言い方でこの2つ(4:18-11:1)(11:2-16:12)、(16:13-22:14)(22:15-25;)を見ることができます。

山上の説教の中で「律法と預言者を成就するために来ました」ということが、2度(5:17-20,7:12)言われています。律法と預言者すべてがここに書かれている通りであるということになりますけれども、その「律法と預言者」という言い方もこの4つを区別する言い方です。

それと「知恵と力あるわざを故郷ではなさらなかった。こんな知恵と力あるわざをどこから得たのか」という言い方があります。その「知恵」と言っているのは、たとえば。詩篇78篇にもありますけれど、父の教え、たとえばで知恵を語っている。天の御国の教え、これが知恵です。「力あるわざ」と言っているほうは、いやしの奇跡。盲人、あしなえ、

悪霊をいやしというのが、力あるしるしのわざということになると思います。この「知恵と力あるわざ」というのも、この全体を見るための枠組みになっているでしょう。

マタイ 4:18-25: 天の御国のたとえ(知恵)		2016.12.23	
16:13-22:14	4:18-11:1		
王の決算(負債) 18:21-35 ぶどう園の労働賃金 21:1-16 ぶどう園の兄弟 21:27b-32 ぶどう園の主人と農夫 21:33-46 王の婚宴 22:1-14	(天の御国のたとえ 5:-7:) 種まき(40a地) 13:4-23 毒麦 13:24-30 / 36-43 からし種 13:31-32 / パン種 13:33 畑の宝、席の子真珠、漁、倉の主人 13:44-53	教え(善悪) 教え(善悪)	教え(善悪) 教え(善悪)
22:15-25:	11:2-16:12		
王が帰るときに時を待つ 24:34-42 五人の女が花婿を待つ 25:1-13 5.2.15 ラント種かたし 25:14-30			

ということで、たくさんたとえがあります。(天の御国のたとえ「知恵」について) とういうたとえが書かれているかを書き出してみました。ここ(4:18-11:1)の段落には、ないですね。(11:2-16:12)種まき、毒麦、からし種という話とか、(16:13-22:14)ぶどう園の話が多いです。ぶどう園の労働賃金、ぶどう園の兄弟、ぶどう園の主人と農夫とか。それと(22:15-25:)さばきの日の話とういうたとえ話が書かれています。この段落(11:2-16:12)のたとえ話を見ると、教えを聞くかどうかということですね。種まきの話もそうでしたよね。教えを聞くのかどうかということで、このたとえが使われていますね。この段落(4:18-11:1)にはないのですが、天の御国の教えそのものが書かれていますので、たとえではなくて、そのまま教えているということです。こちらのたとえ(16:13-22:14)は、さばき主ですよ、王様が来ますよと、そのさばき主のさばきの話ここにあります。そして、(22:15-25:)その「さばき主が来る。その日に忍耐して待っていなさい。そうすれば選ばれる。そうしないと選ばれない。」というさばきの日の話が、このたとえの、たくさんありますけれども、段落ごとの特徴です。

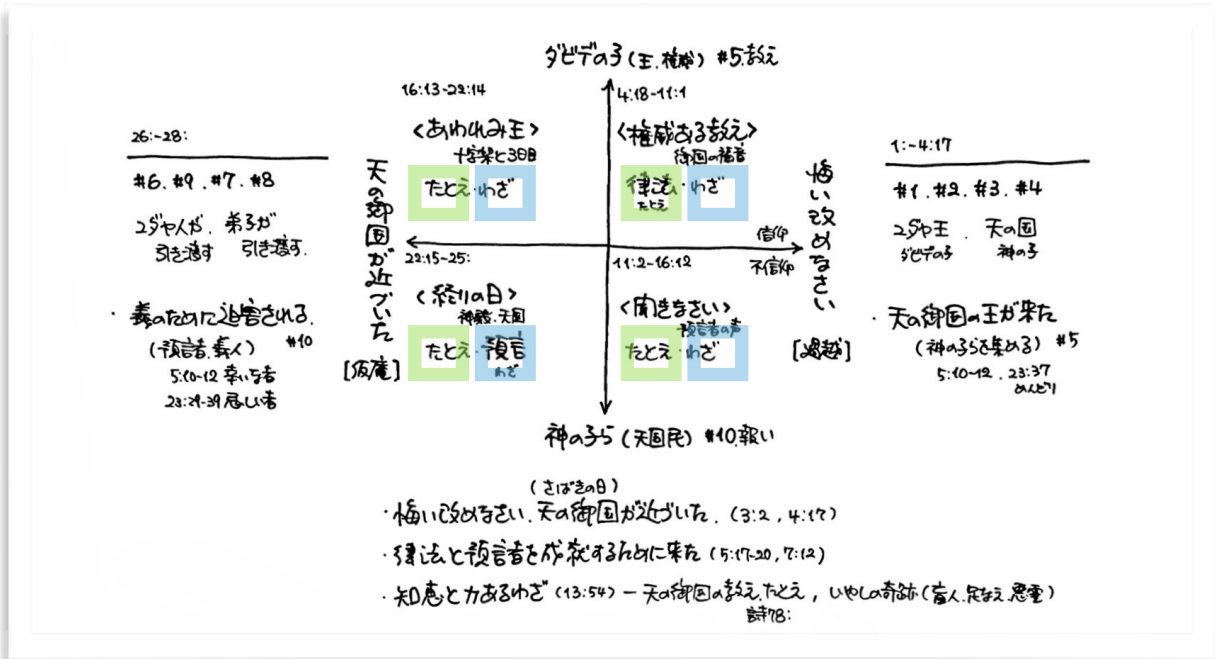
マタイ 4:18-25: いやしの奇跡 (カあるわざ)

2016.12.26

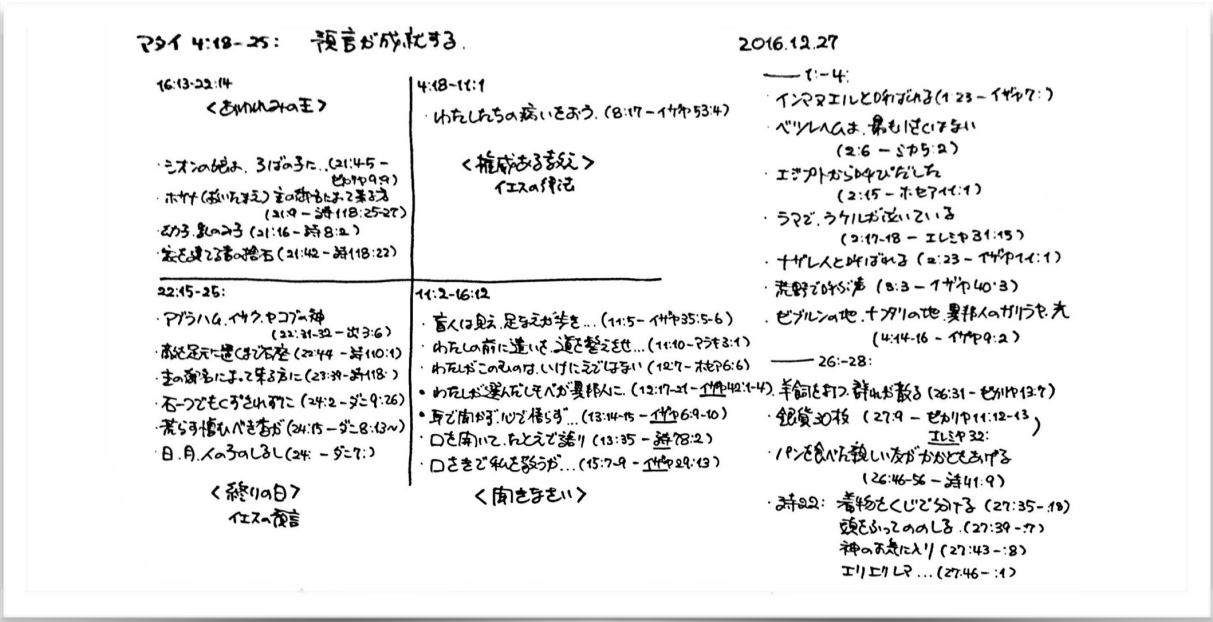
<p>16:13-22:14                  ・ 2人かんの子の悪霊を追い出す (17:14-20)                  弟子は追い出せない                  ○ ふたりの盲人「サデデゴマ。」 (20:29-34)                  ・ 宮の殿で盲人、足を洗えい (21:14)                  ・ いちじくの木を枯らす (21:18-22)</p>	<p>4:18-11:1 (4:23/9:35-御国・奇跡)                  ・ 5い病人の子 (8:1-4) 植栽                  ○ 中風者の罪をゆるす (9:1-8) 権威                  ○ 百人隊長の「僕に中風 (8:5-13) 権威」 会堂司の娘を生き返す (9:18-26)                  ・ パテDのLやとた熱病 (8:14-17) △ 12年長血女、夜あふににぞ (9:18-26) 権威                  □ 炭をしろ (8:23-27) 薄信                  ○ ふたりの盲人「サデデゴマ。」 (9:27-31) 権威                  ・ 墓場の悪霊を2人とぶつ (8:28-34) × かん (悪霊を追い出す) (9:32-34) vs 191141人                  &lt; イエス、弟子たち &gt;</p>
<p>22:15-25:</p>	<p>11:2-16:12 (11:5/15:30-31 - 盲人職人... 葉を3人さす (23))                  (12:38-39/16:1-4 - 37人の3人3人 vs 191141人) &lt; 191141人、職業 &gt;                  ・ 安息日に祈る者たちをい (12:1-21) vs 191141人                  × 盲人のあし悪霊を追い出す (12:22-37) vs 191141人                  ・ 群衆をあわかし、病人をい (14:14) { 不信仰ゆえに                  カあるわざをさす (13:54-58)                  ○ 5パンと魚12かご、5000人 (14:15-22)                  □ 水の上を歩く (14:23-34) 薄信                  △ 病人が、着物のしを洗 (14:35-36)                  ・ カナン女の娘、パンくずを (15:22-28)                  ○ 7パン、少小魚、7かご、4000人 (15:32-39)</p>

「知恵と力あるわざ」の「力あるわざ」のほうは、いやしの奇跡。こちら(知恵のたとえ)4:18-11:1になくて、他に3つある。「力あるわざ」に関しては、ここ(22:15-25:)になくて、こちら向きにある(他の3つにある)というふうになっています。ここ(4:18-11:1)には特に、8章と9章の中に、力あるわざが書かれています。11:2のところからにもあります。その2つを見たときに、「信仰によって、信仰によって」ということがあります。権威ある主に信頼して、いやしてくださいと頼んでいやされるという、権威に信頼するかどうかということがポイントになっています。こちら(11:2-16:12)は、いやしを見て、疑う、拒絶する、ばかにする。それゆえに、不信仰ゆえに、力あるわざをなさらなかったということが、ここに書かれています。5千人に食べさせる、4千人に食べさせるほうは、「パンください、ぜひ皆を食べさせてください」という信仰によって与えられたというよりは、力あるわざ自体を見せてくれる。でも、このあとのパリサイ人との話の中で、「5千人に食べさせた、4千人に食べさせた話を忘れたのか」というようなことを言われていますよね。そういう意味で、こちらは、わざに対しての反応。基本的に不信仰です。この不信仰な反応に対して、一人だけ、カナンの女、異邦人が信仰をあらわすという、「パンくずでも…いただける、子犬でも食べますよね」という話をする。ここがすごく目立つところです。

ここ(16:13-22:14)にも、少し、力あるわざがあるのですけれども、この中で、出だしの、てんかんの子の悪霊を追い出す、弟子は追い出せない。いちじくの木を枯らすという話が、2つとも「山が動きます」という言い方でくられています。この力あるわざは、王に信頼するかどうか。ふたりの盲人と宮での話のこの2つの力あるわざは、柔らかな王であるというところであらわされていますので、この4つは、王であることをあらわしている「力あるわざ」というように区別できると思います。



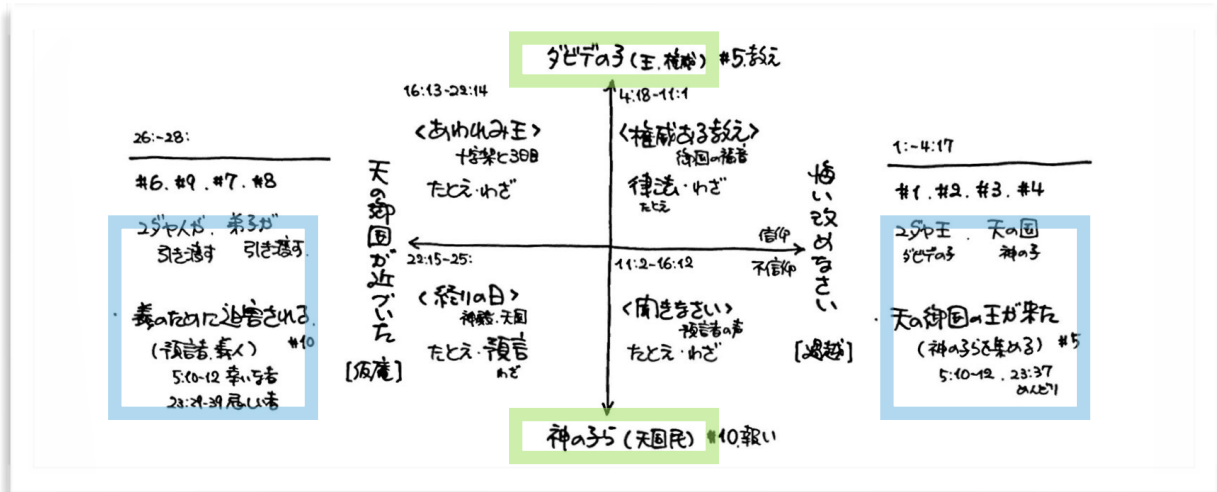
ということで、見てみると、わざ(4:18-11:1)と、わざ(11:2-16:12)と、わざ(16:13-22:14)。たとえ(16:13-22:14)と、たとえ(22:15-25)と、たとえ(11:2-16:12)があるのですけれど、これ(4:18-11:1)は、特にたとえではなくて、律法というかたちで知恵を教えています。わざ(4:18-11:1)と、わざ(11:2-16:12)と、わざ(16:13-22:14)があるのですけれど、ここ(22:15-25)は、わざについては、なされていないのですが、このあとに起こるわざの預言をしていますということで、たとえとわざ、律法と預言、教え(律法)と預言、「教え(律法)と預言を成就するために来た」というように見ることができるとおもいます。



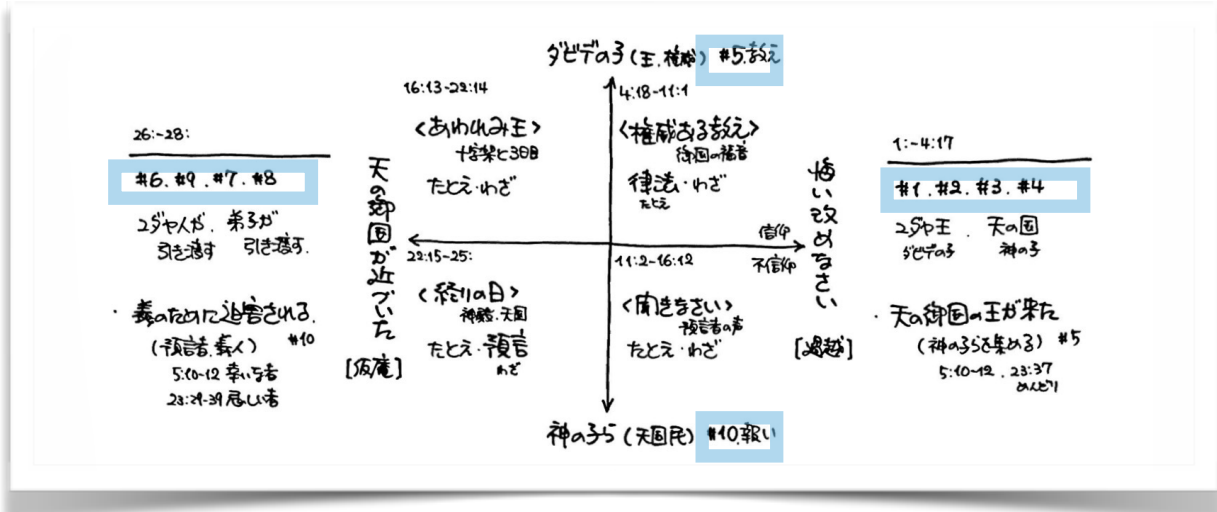
その預言されていたことというもののまとめが、これになっています。1章から4章の中に預言者が言ったことが成就するということがたくさんありました。それと、この段落(4:18-11:1)には、無いのですよね。11章から16章、聞きなさいという預言。あわれ



みの王が来るという預言。終わりの日、これからの終わりの日が来ますよという預言。こちら(1章から4章)は、ダビデの子、神の子が来ましたという預言が成就する。26章からは、引き渡しますということ成就させてしまったということですので、「律法と預言者が成就するために来ました」という意味で、律法(4:18-11:1)と預言者(11:2-16:12)(16:13-22:14)が成就するために来た。これから、イエスの預言が成就する(22:15-25;)ということを書かれているところですよ。



この4つをもう一度見てみると、最初の段落(1:4:17)は、ユダヤ人の王、ダビデの子、天の御国、神の子が来るというところですよ。天の御国の王が来ます。最後のところ(26:-28;)は、ユダヤ人が引き渡す、弟子が引き渡すというところですよけれど、これは、義のために迫害されている、「幸いな者よ」という中と、「忌まわしい者よ」という中に、「義のために迫害される、義人が十字架につけられる、預言者が殺される」という話が23章にあります。「義のために迫害される者は幸いです。天の御国はその人のものだ。」と、「天の御国の王が来て、その子らを集めるからだ。」というように、この「天の御国の福音」と言った時の大きな枠組みと、この中の(段落の)こちら(4:18-11:1)(16:13-22:14)が、王権、ダビデの子である王の権威を持っている。こちら(11:2-16:12)(11:2-16:12)は、神の子ら、天の国民に選ばれる、選ばれないという話が、(ababのbのほうですよね…))というのが、マタイ全体の流れになっていると思います。



十戒の#1,#2,#3,#4というところが、ここ(1:4:17)。#6,#9,#7,#8という順番で引き渡すところ(26:-28:)。真ん中のところ(上段a)は、父の教え(#5)、そして、(下段b)は報い(#10)。むさぼるといのは、報いをどう考えるかということです。父の教えと報いについて。聞くこと。聞くことが報いを受ける(ことが信仰の)手段です。5番目と10番目ということで、これ全体がモーセの律法を成就しているということになります。

最後のおまけです。マタイの福音書の出だしの系図は、「だれだれの父、だれだれの父」という父の系図になっています。ルカ福音書の系図は、「だれだれの子、だれだれの子」という子のほうの系図になっています。そこから、父であるという権威ある父の教えに聞き従う。アブラハムの契約、ダビデの契約、父たちの契約の約束の成就として、主イエス・キリストが来て、十字架に架かって、復活して、天の御国が来ますよ、その天の御国には入りなさいと勧められている書物であるということがわかると思います。